

東北地方 1 か月予報

(6 月 1 7 日から 7 月 1 6 日までの天候見通し)

平成 1 8 年 6 月 1 6 日
仙台管区气象台発表

<特に注意を要する事項>

東北太平洋側では日照時間の少ない状態が続いています。今後 2 週間程度も日照時間が少ない見込みです。農作物の管理などに注意してください。

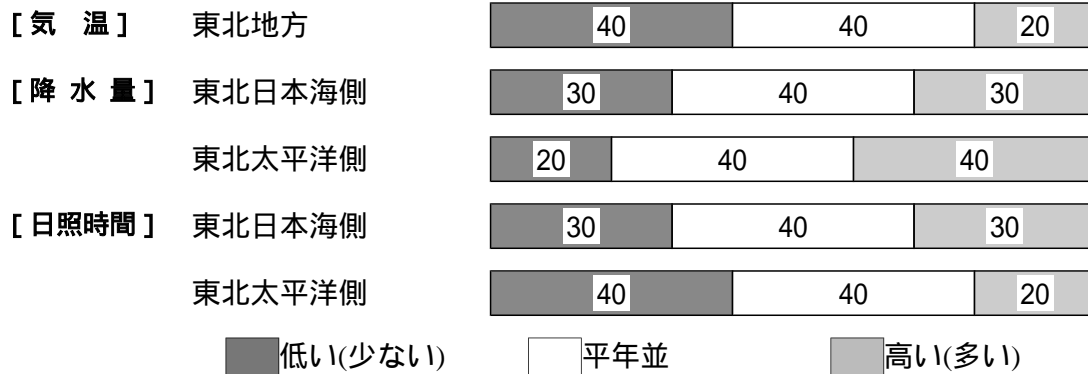
<予想される向こう 1 か月の天候>

梅雨前線やオホーツク海高気圧の影響で、東北日本海側では平年と同様に曇りや雨の日が多く、東北太平洋側では平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。

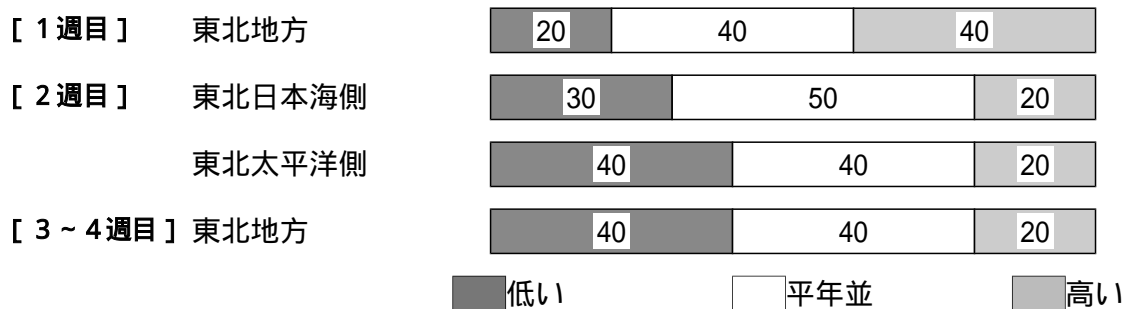
向こう 1 か月の平均気温は東北地方で平年並か低い、降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で平年並が多い、日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で平年並か少ないでしょう。

週別の気温は、1 週目は東北地方で平年並が高い、2 週目は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で平年並か低い、3 ~ 4 週目は東北地方で平年並か低いでしょう。

<向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >



<気温経過の各階級の確率 (%) >



<予報の対象期間>

1 か月 : 6 月 1 7 日 (土) ~ 7 月 1 6 日 (日)
1 週目 : 6 月 1 7 日 (土) ~ 6 月 2 3 日 (金)
2 週目 : 6 月 2 4 日 (土) ~ 6 月 3 0 日 (金)
3 ~ 4 週目 : 7 月 1 日 (土) ~ 7 月 1 4 日 (金)

< 次回発表予定等 >

1 か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は6月23日

3 か月予報：6月22日（木） 14時

< 参考資料（平年並の範囲等） >

（１）30 年平均値（向こう 1 か月の平均気温、降水量、日照時間と 1 週目、2 週目、3 ～ 4 週目の平均気温）

	気 温 ()	降 水 量 (mm)	日照時間 (時間)	気 温()		
				1 週目	2 週目	3 ～ 4 週目
大船渡	19.0	188.2	131.2	17.7	18.3	19.7
新庄	20.3	192.2	129.5	19.1	19.7	21.0
若松	21.4	171.4	137.0	20.3	20.7	22.1
深浦	19.1	136.1	165.5	17.7	18.5	19.9
青森	18.9	94.8	167.5	17.4	18.2	19.6
むつ	17.4	125.1	143.3	15.9	16.7	18.1
八戸	17.9	119.9	153.8	16.5	17.2	18.7
秋田	20.7	180.4	155.8	19.4	20.1	21.3
盛岡	19.8	152.3	130.5	18.6	19.1	20.4
宮古	17.8	146.9	127.3	16.4	17.0	18.6
酒田	21.0	191.6	151.8	19.8	20.4	21.7
山形	21.1	145.4	130.5	19.9	20.4	21.9
仙台	19.9	180.3	107.2	18.6	19.2	20.7
石巻	19.3	145.0	126.0	18.0	18.6	20.0
福島	21.4	158.0	110.8	20.1	20.6	22.2
白河	20.0	206.3	104.1	18.7	19.2	20.8
小名浜	19.9	167.3	121.6	18.7	19.3	20.5

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

（２）1971 ～ 2000 年のデータに基づいた向こう 1 か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.5 ～ +0.4	88 ～ 114	90 ～ 110
東北日本海側	-0.4 ～ +0.3	84 ～ 110	91 ～ 106
東北太平洋側	-0.6 ～ +0.4	85 ～ 110	88 ～ 113

（３）この予報期間の 1 週目、2 週目、3 ～ 4 週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1 週目	2 週目	3 ～ 4 週目
東北地方	-0.6 ～ +0.5	-0.6 ～ +0.5	-0.6 ～ +0.5
東北日本海側	-0.6 ～ +0.4	-0.5 ～ +0.6	-0.5 ～ +0.5
東北太平洋側	-0.6 ～ +0.5	-0.7 ～ +0.5	-0.6 ～ +0.5

< 参考資料（利用上の注意） >

（１）気温（降水量）等は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の 3 つの階級で予報します。階級の幅は、1971 ～ 2000 年の 30 年間に於ける各階級の出現率が等分（それぞれ 33 %）となるように決めてあります（気候的出現率と呼びます）。

（２）予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった 10 % 以下や 60 % 以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（30 %、40 %）の確率しか付けられません。

（３）晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の 2 分の 1 より多い（少ない）ことを意味します。

東北地方 1 か月予報解説資料

平成 18 年 6 月 16 日 仙台管区气象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう 1 か月 (6 月 17 日～7 月 16 日) :

梅雨前線やオホーツク海高気圧の影響で、東北日本海側では平年と同様に曇りや雨の日が多く、東北太平洋側では平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並か低いでしょう。

1 週目 (6 月 17 日～6 月 23 日) :

期間のはじめに晴れの日もありますが、その後は気圧の谷や梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

2 週目 (6 月 24 日～6 月 30 日) :

梅雨前線やオホーツク海高気圧の影響で、東北日本海側では平年と同様に曇りや雨の日が多く、東北日本海側では平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう

平均気温は東北日本海側では平年並、東北太平洋側では平年並か低いでしょう。

3～4 週目 (7 月 1 日～7 月 14 日) :

梅雨前線やオホーツク海高気圧の影響で、東北地方は平年と比べて曇りや雨の日が多いでしょう。

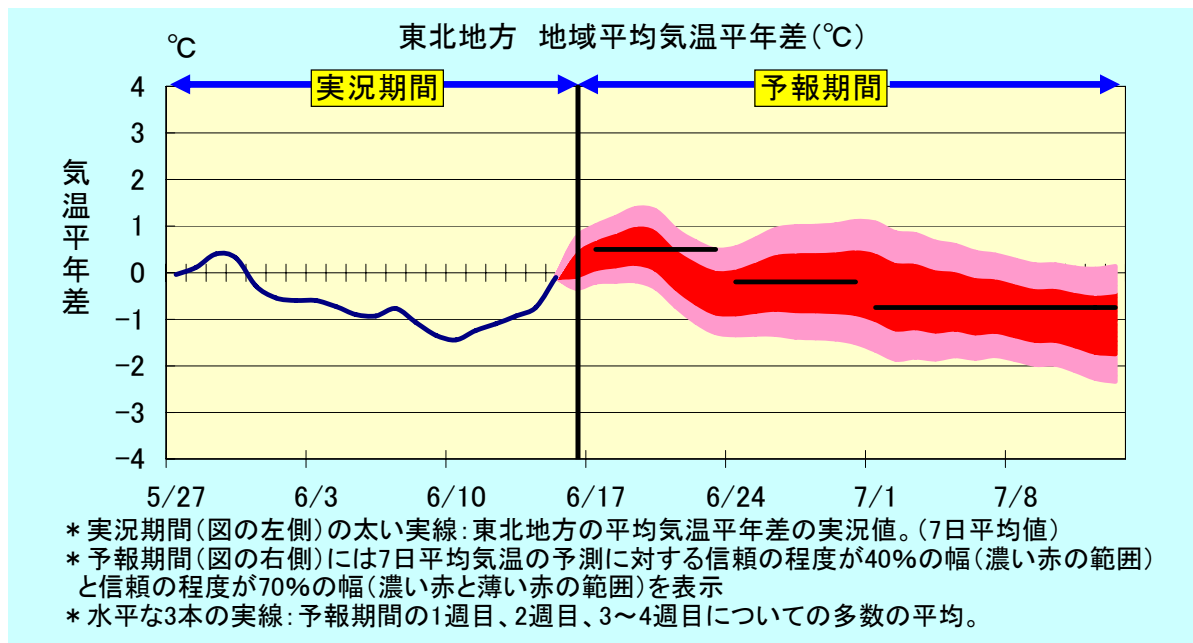
平均気温は平年並か低いでしょう。

平年の晴れ日数

	向こう 28 日間	1 週目	2 週目	3～4 週目
東北日本海側	11.2 日	3.0 日	2.7 日	5.5 日
東北太平洋側	9.4 日	2.5 日	2.0 日	4.9 日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1 週目と 2 週目を「平年並」、3～4 週目を「低い」と予測している。予報は、その他の資料から 1 週目の東北地方を「平年並か高い」、2 週目の東北日本海側を「平年並」、東北太平洋側を「平年並か低い」、3～4 週目の東北地方を「平年並か低い」とする。なお、数値予報の信頼度は小さい。

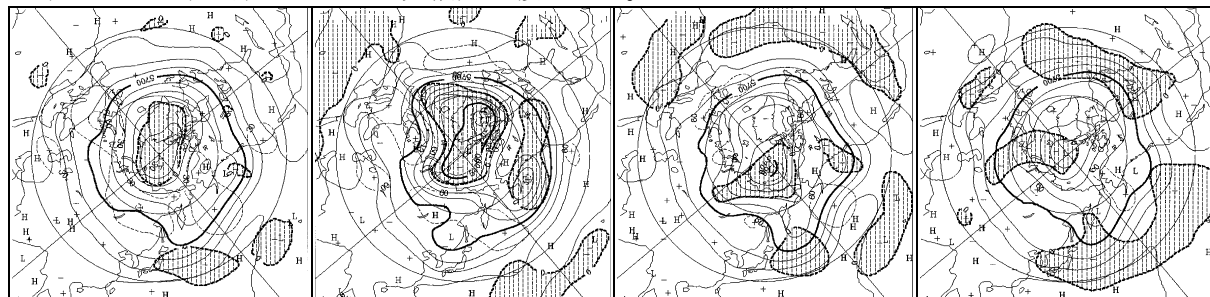


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、シベリアから北アメリカにかけて正偏差（暖気に対応）、北極及び日本の東海上は負偏差（寒気に対応）。日本の南海上の高気圧が強く、極東域の高緯度には分流が見られる。

1週目は、極東域は広く正偏差で、沿海州付近に低圧部が表現されている。2週目はバイカル湖の東で正偏差、日本の東海上が負偏差で、北・東日本中心に東谷傾向。極東域の偏西風は分流が見られる。3～4週目は、バイカル湖の東が正偏差で、カムチャツカ半島付近が負偏差となり、北日本から西日本は東西に広がる負偏差に覆われる。



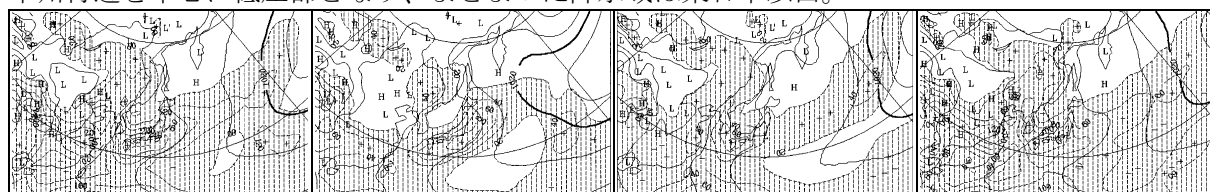
500 hPa 高度予想図（左から）1 か月平均、1 週目平均、2 週目平均、3～4 週目平均

実線：等高度線（間隔 60m）、点線：平年差（間隔は 1 か月 30m、週別 60m）、陰影部：負偏差域（一般に寒気に対応）

地上気圧と降水量：

月平均では、本州付近が相対的な低圧部で、西日本から東北地方までまとまった降水域がかかる。オホーツク海高気圧も見られる。

1週目は、まとまった降水域は北日本から南西諸島までかかる。カムチャツカ半島付近に高気圧が表現され、梅雨前線は日本の南岸に停滞する。2週目は、太平洋高気圧が後退し、本州南岸に低圧部が予想され、降水域の中心は西日本。3～4週目は、千島列島付近に高気圧が表現され、本州付近を中心に低圧部となり、まとまった降水域は東日本以西。



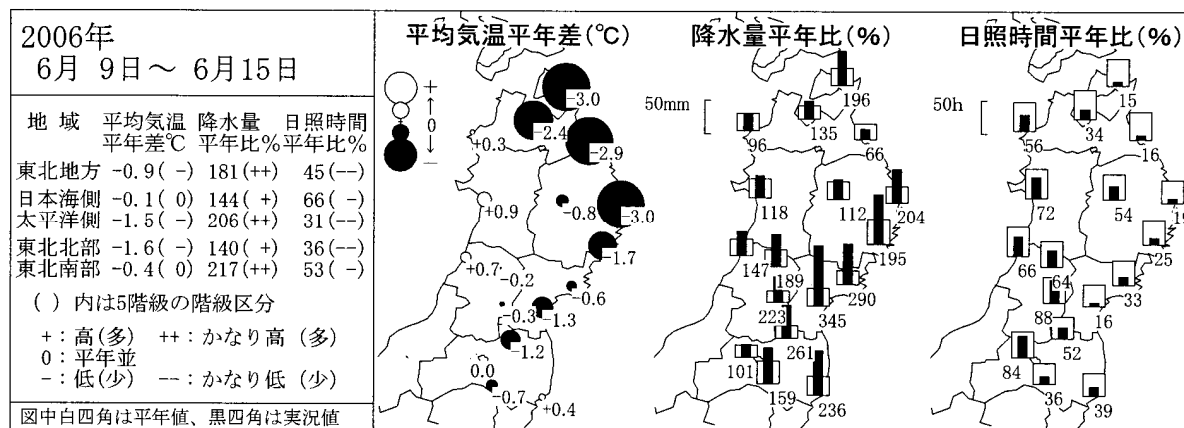
地上予想天気図（左から）1 か月平均 1 週目平均 2 週目平均 3～4 週目平均

実線：等圧線（間隔 4 hPa）、陰影部：降水域（1 か月 80mm 以上、1 週目・2 週目 20mm 以上、3～4 週目 40mm 以上）

4. 最近 1 週間（6 月 9 日～6 月 15 日）の天候の経過

この期間、東北太平洋側では14日を除いて梅雨前線やオホーツク海高気圧からの湿った東寄りの風の影響で、日照時間が平年よりかなり少なく、気温の低い日が多かった。東北南部は降水量が平年よりかなり多く、9日頃梅雨入りしたと見られ、平年より1日早く、昨年より6日早かった。また東北北部は15日頃梅雨入りしたと見られ、平年より3日遅く、昨年より10日早かった。

平均気温は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で低い。降水量は東北北部で多く、東北南部でかなり多い。日照時間は東北日本海側で少なく、東北太平洋側でかなり少ない。



最近 1 週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）